



# 2011 J.LEAGUE™ AWARDS

## 最優秀選手賞はレアンドロ ドミンゲス(柏)

ベストヤングプレーヤー賞も柏の酒井



©J.LEAGUE PHOTOS



©J.LEAGUE PHOTOS

ベストイレブンに輝いた選手たち。前列左から遠藤、レアンドロ ドミンゲス、清武。中列左から近藤、酒井、ジョルジ ワグネル、藤本。後列左から橋崎、田中 マルクス 闘莉王、ハーフナー マイク(ケネディは欠席)



©J.LEAGUE PHOTOS

写真上は、最優秀選手賞を受賞したレアンドロ ドミンゲス。副賞のゴールデンボールトロフィーを掲げて喜びの笑顔。写真下は、ステージ上に勢ぞろいした柏の選手・スタッフ。優勝の感激も新たに



©J.LEAGUE PHOTOS

ベストヤングプレーヤー賞の酒井。右は同賞のプレゼンターを務めたJリーグ特命PR部 女子マネージャーの足立梨花さん

### 柏の選手、監督が次々に表彰

約9カ月に及んだリーグ戦を、それぞれのクラブカラーのユニフォームで戦った選手たちが、タキシードに身を包んで登場した。その最後に、2日前にリーグ戦初優勝を飾ったばかりの柏レイソルの選手・スタッフがステージ上に勢ぞろいしたところで、Jリーグの大東和美チェアマンがあいさつ。東日本大震災によって大きな影響を受けたシーズンを振り返り、「来年、リーグ戦、Jリーグヤマザキナビスコカップは20回目の大会を迎える。Jリーグは皆さまの協力を仰ぎながら、さらなる発展の年にしていきたい」と述べ、各賞の発表と表彰に移った。

表彰式のクライマックスは最優秀選手賞の発表。ベストイレブンの投票結果を参考に、大東チェアマンらが委員となる選考委員会で投票が行われ、柏のMFレアンドロ ドミンゲスが最高得票。2010シーズンから柏でプレーする彼は、今シーズンのリーグ戦で30試合に

出場し、優勝に大きく貢献した。チーム最多の15得点を挙げただけでなく、チャンスメイク、守備にも奮闘したレアンドロ ドミンゲスは「苦しい時もそばにいてくれた妻と息子、僕を信じてくれた柏の強化(担当)の方々、ありがとうと言いたい。きょう、こうして足を運んでくれた皆さんの力のおかげで、人生の幸せな時を過ごすことができた」と、周囲への感謝を忘れなかった。

ベストヤングプレーヤー賞に輝いたのは、やはり柏のDF酒井宏樹。今シーズンの活躍でSAMURAI BLUE(日本代表)にも招集された21歳は、攻守に器の大きさを感じさせるプレーを披露した。一つのクラブから同じ年に最優秀選手賞とベストヤングプレーヤー賞(2009年までは新人王)が選ばれたのは、19回目を迎えたJリーグアウォーズ史上初のこと。

優秀選手賞の29人の中から選ばれるベストイレブンには、柏から4人の選手が選出された。レアンドロ ドミンゲス、酒井に加え、DF



©J.LEAGUE PHOTOS

最優秀監督賞のネルシーニョ監督。昨シーズンのJ2優勝、J1昇格に続き、チームをJ1の頂点に導いた



©J.LEAGUE PHOTOS

受賞者を「心からたたえたい」と大東チェアマン

Jリーグのシーズンのクライマックスを飾るイベントとして恒例となった「Jリーグアウォーズ」は、Jリーグで活躍した選手・監督、クラブ、審判などの功績をたたえ、多くの関係者やファン・サポーターとともに1年を締めくくる場となる。ことしは4年ぶりに舞台を神奈川県横浜アリーナへ移し、J1・J2リーグ戦最終節の2日後となる12月5日に開催。華やかな雰囲気の中、激闘を終えてすがすがしい表情の選手たちを、多くの参加者が祝福した。

**「2011 Jリーグアウォーズ」受賞一覧**

最優秀選手賞	レアンドロ ドミンゲス(柏)	
(GK)	植崎 正剛(名古屋)	
(DF)	近藤 直也(柏) / 酒井 宏樹(柏) / 田中 マルクス(名古屋)	
ベストイレブン	ジョルジ ワグネル(柏) / レアンドロ ドミンゲス(柏) / 藤本 淳吾(名古屋) / 遠藤 保仁(G大阪) / 清武 弘嗣(C大阪)	
(MF)		
(FW)	ハーフナー マイク(甲府) / ケネディ(名古屋)	
得点王	ケネディ(名古屋)	
ベストヤングプレーヤー賞	酒井 宏樹(柏)	
フェアプレー賞 高円宮杯	ガンバ大阪	
フェアプレー賞 (J1)	モンテディオ山形	フェアプレー賞 (J2) FC東京
フェアプレー個人賞	梁 勇基(仙台) / 太田 宏介(清水)	
最優秀監督賞	ネルシーニョ(柏)	
最優秀主審賞	西村 雄一	最優秀副審賞 相楽 亨
Jリーグベストピッチ賞	NACK5スタジアム大宮 / 等々力陸上競技場 / 日産スタジアム / アウトソーシングスタジアム日本平	
功労審判員賞	岡田 正義	
功労選手賞	松田 直樹 / 三浦 淳宏	
最優秀育成クラブ賞	東京ヴェルディ	

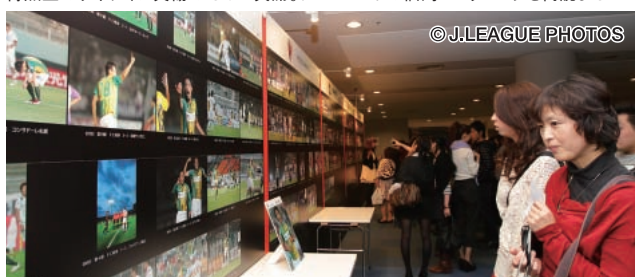
※功労賞は該当者なし



4年ぶりの舞台となった横浜アリーナに数多くのファン・サポーターも集った



得点王のケネディは負傷のために欠席。チームメートの植崎がメッセージを代読した



2階フロアでは2011シーズンを振り返る写真展示などのイベントが行われた

近藤直也、MFジョルジ ワグネルで、いずれも初の受賞。ガンバ大阪のMF遠藤保仁は9年連続9度目の受賞で、自身が保持していた最多記録を更新した。

最優秀監督賞は、柏のネルシーニョ監督が初受賞。「レイソルに関わる全ての人たちに感謝したい」とスピーチした。

**新設の賞、初の試みも**

得点王のタイトルは、2シーズン連続して名古屋グランパスのFWケネディが獲得した。2日前の最終節で負傷したために出席は

できなかったが、チームメートのGK植崎正剛が「昨年に続いてこの(副賞の)ゴールデンシューズをいただけるということで、これで両足分そろいました。来年はこのスパイクで試合に出たいと思います(笑)」とユーモアあふれるメッセージを代読した。

J1で最も反則ポイントが少なかったクラブに与えられるフェアプレー賞高円宮杯は、G大阪が4年ぶり2度目の受賞。西野朗監督は「選手がレフェリーを尊重し、対戦チームの選手をリスペクトして戦った結果だと思う」とスピーチした。フェアプレー個人賞はベガルタ仙台のMF梁勇基、清水エスパルスのDF太田宏介が、ともに初の受賞となった。最優秀主審賞、最優秀副審賞には3年連

続で、それぞれ西村雄一氏、相楽亨氏が選ばれた。功労者表彰では、今回から新設された功労審判員賞を岡田正義氏、功労選手賞を松田直樹氏、三浦淳宏氏が受賞。ことし8月に急逝した松田氏の姉の真紀さんは、母の正恵さんのコメントを代読。その中で「暑き日の 急ぎし君を 忘れじと 支えし人の 愛なお深し」という歌を披露した。

また、表彰式に先立って、初の企画であるサポーターステージショーを開催。ファン・サポーターの投票結果を基に、J2各クラブから選ばれた20人の選手が登場し、来場者の事前投票による「J2 Most Exciting Player」の発表を実施。最多票を獲得したFC東京のDF今野泰幸が受賞した。

**歴代の最優秀選手賞受賞者**

1993	三浦 知良(ヴェルディ川崎)
1994	ヘレイラ(ヴェルディ川崎)
1995	ストイコピッチ(名古屋グランパスエイト)
1996	ジョルジーニョ(鹿島アントラーズ)
1997	ダウンガ(ジュビロ磐田)
1998	中山 雅史(ジュビロ磐田)
1999	アレックス(清水エスパルス)※
2000	中村 俊輔(横浜F・マリノス)
2001	藤田 俊哉(ジュビロ磐田)
2002	高原 直泰(ジュビロ磐田)
2003	エメルソン(浦和レッズ)
2004	中澤 佑二(横浜F・マリノス)
2005	アラウージョ(ガンバ大阪)
2006	田中 マルクス(名古屋)
2007	ポンテ(浦和レッズ)
2008	マルキーニョス(鹿島アントラーズ)
2009	小笠原 満男(鹿島アントラーズ)
2010	植崎 正剛(名古屋)
2011	レアンドロ ドミンゲス(柏)

※現在は三都主 アレサンドロ(名古屋)として登録



日本サッカー協会の小倉会長(右)より、クラブを代表して高円宮杯を受けたG大阪の遠藤



最優秀主審賞の西村氏(右)と同副賞賞の相楽氏。二人はともに3年連続の受賞となった



J2 Most Exciting Playerの今野



フェアプレー個人賞の梁勇基(左)と太田はリーグ戦の34試合に出場して警告・退場が一度もなかった



左から功労選手賞を受賞した松田氏の姉・真紀さん、同じく三浦氏、新設の功労審判員賞の岡田氏



最優秀育成クラブ賞は東京Vに

## Jリーグ20周年記念プロジェクト 劇場版「名探偵コナン 11人目のストライカー」とコラボレーション決定!

ことし、設立20周年を迎え、2012年はリーグ戦が20シーズン目となるJリーグは、さらなるJリーグ理念の実現、スポーツ振興を目指し、12年4月14日(土)公開予定のアニメーション

映画 劇場版「名探偵コナン 11人目のストライカー」とコラボレーションすることを決定。12月5日に開催された2011Jリーグアウォーズの会場で発表された。「サッカー」がテーマとなる

今回の映画製作に当たり、Jリーグはロケーションハンティングや映像撮影などに全面協力し、実名でのJクラブや選手の登場も含めてサポート。それ以外にも選手の映画イベント出演、Jリーグ試合観戦企画や、Jリーグおよびクラブ限定グッズ製作、ゴールデンウィークのさまざまなコラボレーションを行う予定となっている。

映画には今野泰幸(FC東京)、中村憲剛(川崎フロンターレ)、榎崎正剛(名古屋グランパス)、遠藤保仁(ガンバ大阪)の4選手が本人役としてアニメーション出演および声優として登場する。



名探偵コナンを挟んでポーズを取る中村、今野、遠藤、榎崎の4選手(左から)。右はコラボレーションマーク

### 「カルビー&Jリーグ 元気にサッカー! スペシャル観戦ツアー!」を開催

Jリーグは、Jリーグオフィシャルスポンサーであるカルビー株式会社とともに、東日本大震災で被災した福島県内の小学生サッカーチームをJリーグの試合に招待する「カルビー&Jリーグ 元気にサッカー! スペシャル観戦ツアー!」を開催した。本イベントは、子どもたちに思い切りサッカーをプレーし、スポーツを楽しむ機会と、Jリーグ最高レベルの試合をスタジアムで観戦する機会を提供し、笑顔でサッカーを楽しめる1日をサポートした。



晴天に恵まれ、プレーと試合観戦を心行くまで楽しんだ福島県の子もたち

参加したのは福島県サッカー協会に登録している7つの小学生チームで、11月26日にバスで千葉県柏市へ到着。日立柏総合グラウンドで行われたサッカー交流大会で、柏レイソルアカデミーを加えて試合を行った。JリーグOB選手の長谷川健太氏、城彰二氏もゲストとして参加。カルビー(株)の社員の方々も、イベント運営スタッフとしてサポートした。その後、日立柏サッカー場で開催されたJ1リーグ戦第33節の柏vsセレッソ大阪を観戦。トップレベルの迫力あるプレーを間近で堪能した。

### 「Jリーグ with Coca-Cola “Happy” クリスマスイベント」を開催

Jリーグは、Jリーグオフィシャルスポンサーである日本コカ・コーラ株式会社とともに11月12日から12月3日まで、Jリーグの試合が行われた全22会場で「Jリーグ with Coca-Cola “Happy” クリスマスイベント」を開催した。本イベントでは、コカ・コーラやJリーググッズ、Jリーグとコカ・コーラのオリジナルコラボグッズなど、豪華賞品がその場で入手できるハッピープレゼントの他、パーティーシーズンにはぴったりのコカ・コーラを気軽に楽しめる試飲コーナーも設置。クリスマスを前に一足早くハッピーな気分を味わえるイベントを、多くのファン・サポーターが楽しんだ。

イベントの目印は、目にも鮮やかな赤の「ハピネストラック」。ハッピープレゼントは「ハピネス!」の掛け声に合わせてトラック後部のボタンを押すと、開口部から前述の豪華プレゼントが飛び出す仕組み。親子連れ、友人同士などが、わくわくしながら順番を待ち、プレゼントを手にするたびに歓声が上がった。



ハピネストラックをバックにプレゼントを手にして記念撮影。一足早いクリスマス気分を味わった

## AFC CHAMPIONS LEAGUE

### AFCチャンピオンズリーグ2012 グループステージ組み合わせが決定

アジア地域のクラブチャンピオンを決める「AFCチャンピオンズリーグ2012」のドロー(抽選会)が12月6日、マレーシアのクアラルンプールで行われ、グループステージの組み合わせが決まった。3月6日(火)に始まるグループステージは、各グループの4チームがホーム&アウェイで2回戦総当たり。それぞれ上位2チームがラウンド16へ進出する。日本からはJリーグ1~3位の柏レイソル、名古屋グランパス、ガンバ大阪、さらに第91回天皇杯全日本サッカー選手権大会優勝クラブが参加。天皇杯で柏か名古屋が優勝した場合は、Jリーグ4位のベガルタ仙台が出場する。

AFCチャンピオンズリーグ2012グループステージ組み合わせ	
<西アジア>	
【グループA】	アルラヤン(カタール)/アルジャジーラ(UAE)/ナサフ(ウズベキスタン)/プレーオフ西地区勝者2
【グループB】	アルイテハド(サウジアラビア)/アルアラビ(カタール)/バニヤス(UAE)/バフタコール(ウズベキスタン)
【グループC】	セパハン(イラン)/アルアハリ(サウジアラビア)/ラホウィヤ(カタール)/アルナスル(UAE)
【グループD】	プレーオフ西地区勝者1/ビルズイ(イラン)/アルヒラル(サウジアラビア)/アルガラファ(カタール)
<東アジア>	
【グループE】	ガンバ大阪(日本)/アデレードユナイテッド(オーストラリア)/ブニョドコル(ウズベキスタン)/プレーオフ東地区勝者
【グループF】	蔚山現代(韓国) / <small>第91回天皇杯全日本サッカー選手権大会優勝チーム</small> (日本)/プリズベン・ロアー(オーストラリア)/北京国安(中国)
【グループG】	天津泰達(中国)/城南一和(韓国) / <b>名古屋グランパス</b> (日本)/セントラルコースト・マリナーズ(オーストラリア)
【グループH】	リーグ優勝チーム(タイ)/広州恒大(中国)/全北現代モータース(韓国) / <b>柏レイソル</b> (日本)

## FC町田ゼルビア、松本山雅FCのJリーグ入会が決定

Jリーグは12月12日に開催した臨時理事会で、2012シーズンからのJ2入会を申請していた準加盟クラブのFC町田ゼルビア、松本山雅FCについて審議し、2クラブの入会を承認した。

FC町田ゼルビア	
法人名	株式会社ゼルビア(代表取締役社長 下川 浩之)
設立	2008年3月17日
所在地	〒195-0062 東京都町田市大蔵町550
所属リーグ	日本フットボールリーグ(JFL) 第13回 日本フットボールリーグ(2011) 3位
ホームタウン	東京都町田市
ホームスタジアム	町田市立陸上競技場

敬称略

松本山雅FC	
法人名	株式会社 松本山雅(代表取締役社長 大月 弘士)
設立	2010年7月9日
所在地	〒399-0002 長野県松本市芳野11-14
所属リーグ	日本フットボールリーグ(JFL) 第13回 日本フットボールリーグ(2011) 4位
ホームタウン	長野県松本市
ホームスタジアム	長野県松本平広域公園総合球技場(アルウィン)

敬称略

## J1・J2リーグ戦 2012～16シーズン スカパーJSAT株式会社と放送権契約更新

Jリーグは、JリーグオフィシャルブロードキャスティングパートナーであるスカパーJSAT株式会社(本社:東京都港区、代表取締役 執行役員 社長:高田真治)との、2012～16シーズンの5年間にわたるJ1・J2リーグ戦の放送権契約更新について合意し、11月15日に開催した理事会で承認した。J1およびJ2の全試合放送が、基本放送内容となる。

## マルハンカップ 第17回日本電動車椅子サッカー 選手権大会を後援

Jリーグは11月15日に開催した理事会で、日本電動車椅子サッカー協会が主催する「マルハンカップ 第17回日本電動車椅子サッカー選手権大会」(2011年11月26、27日に大阪市舞洲障害者スポーツセンター「アミティ舞洲」で開催)を後援することを決定した。この大会は、日本における電動車椅子サッカーの普及振興、技術向上を図ることを目的に開催されている。

## 2011 Jリーグ アンフェアなプレーに対する反則金

2011シーズンのアンフェアなプレーに対する反則金は下記の通り。これは、Jリーグ規約第11章「制裁」第163条〔アンフェアなプレーに対する反則金〕および第164条〔反則ポイントの計算方法〕に基づく措置となる。

J1										
反則ポイントの年間合計数が102ポイントを超えた場合、当該Jクラブに対し、以下の通り反則金を科すものとする。										
103ポイント以上112ポイント以下	40万円	143ポイント以上152ポイント以下	150万円							
113ポイント以上122ポイント以下	60万円	153ポイント以上162ポイント以下	200万円							
123ポイント以上132ポイント以下	80万円	163ポイント以上172ポイント以下	250万円							
133ポイント以上142ポイント以下	100万円	173ポイント以上	300万円							
順位	クラブ	反則ポイント	反則金	試合数	警告	警告2回による退場	退場	停止試合数	警告・退場無試合数	1試合平均ポイント
1	ガンバ大阪	25	¥0	34	43	0	0	5	11	0.74
2	モンテディオ山形	34	¥0	34	45	1	0	5	9	1.00
3	横浜F・マリノス	38	¥0	34	47	0	0	4	7	1.12
* 4	鹿島アントラーズ	40	¥0	34	45	1	0	5	7	1.18
5	ジュビロ磐田	45	¥0	34	50	1	0	7	9	1.32
* 6	大宮アルディージャ	51	¥0	34	52	2	0	7	8	1.50
* 7	名古屋グランパス	57	¥0	34	54	0	1	7	7	1.68
* 8	アルビレックス新潟	63	¥0	34	48	3	2	9	7	1.85
9	ベガルタ仙台	65	¥0	34	52	1	0	9	5	1.91
10	ヴァンフォーレ甲府	67	¥0	34	54	1	1	9	6	1.97
*11	アビスパ福岡	72	¥0	34	61	2	1	10	8	2.12
12	柏レイソル	74	¥0	34	57	2	1	8	4	2.18
13	ヴィッセル神戸	77	¥0	34	58	1	1	10	5	2.26
14	川崎フロンターレ	78	¥0	34	54	3	1	13	7	2.29
15	サンフレッチェ広島	82	¥0	34	60	1	2	10	5	2.41
16	セレッソ大阪	84	¥0	34	63	0	2	9	4	2.47
17	清水エスパルス	92	¥0	34	67	4	1	11	5	2.71
18	浦和レッズ	102	¥0	34	70	2	1	12	3	3.00
			合計	¥0	980	25	14	150	117	1.87

J2										
反則ポイントの年間合計数が114ポイントを超えた場合、当該Jクラブに対し、以下の通り反則金を科すものとする。										
115ポイント以上124ポイント以下	40万円	145ポイント以上154ポイント以下	100万円							
125ポイント以上134ポイント以下	60万円	155ポイント以上	150万円							
135ポイント以上144ポイント以下	80万円									
順位	クラブ	反則ポイント	反則金	試合数	警告	警告2回による退場	退場	停止試合数	警告・退場無試合数	1試合平均ポイント
1	FC東京	38	¥0	38	49	1	0	8	12	1.00
2	湘南ベルマーレ	41	¥0	38	45	2	2	7	11	1.08
3	コンサドーレ札幌	46	¥0	38	52	3	0	7	10	1.21
* 4	愛媛FC	53	¥0	38	50	3	2	11	13	1.39
5	栃木SC	55	¥0	38	59	2	0	8	10	1.45
6	カターレ富山	67	¥0	38	51	1	0	10	5	1.76
7	徳島ヴォルティス	72	¥0	38	62	1	0	9	6	1.89
8	ガイナレ鳥取	86	¥0	38	74	0	0	10	6	2.26
9	サガン鳥栖	88	¥0	38	59	2	2	11	4	2.32
9	ロアッソ熊本	88	¥0	38	65	2	2	11	6	2.32
11	ザスバ草津	92	¥0	38	71	0	0	12	5	2.42
12	京都サンガF.C.	95	¥0	38	66	5	2	13	7	2.50
*13	東京ヴェルディ	102	¥0	38	73	2	2	12	5	2.68
14	横浜FC	107	¥0	38	73	4	2	14	6	2.82
15	FC岐阜	110	¥0	38	75	2	1	15	5	2.89
16	水戸ホーリーホック	112	¥0	38	75	4	1	14	4	2.95
17	ジェフユナイテッド千葉	117	¥400,000	38	72	3	0	15	1	3.08
18	大分トリニータ	125	¥600,000	38	79	4	0	20	6	3.29
19	ファジアーノ岡山	128	¥600,000	38	80	3	1	17	3	3.37
*20	ギラヴァンツ北九州	180	¥1,500,000	38	98	4	1	27	2	4.74
			合計	¥3,100,000	1,328	48	18	251	127	2.37

\*印のクラブのポイントには、次の停止試合数が含まれる。

・退場および退席に伴うベンチ入り停止試合数 ・最終節の退場処分により未消化の停止試合数

<反則ポイントの計算方法> (反則ポイント) = ((警告) - (警告2回による退場) × 2) × 1ポイント + (警告2回による退場) × 3ポイント + (退場) × 3ポイント + (停止試合数) × 3ポイント - (警告および退場(退席を含む)がなかった試合数) × 3ポイント



# 2011 Jリーグ チェアマン総括

(社)日本プロサッカーリーグ チェアマン 大東 和美

## 東日本大震災の復興支援活動

開幕直後の3月11日に発生した「東日本大震災」の影響により、ベガルタ仙台、鹿島アントラーズ、水戸ホーリーホックなど被災地にホームタウンを置くクラブは、ホームスタジアムや練習施設に大きな被害を受けた。その他のクラブについても電力事情により、育成組織の練習など困難な状況の中での活動を余儀なくされた。

こうした状況の中、Jリーグは被災地の状況などを考慮し、いち早くリーグ戦、リーグカップ戦の延期を決定した。この決定に際してはJリーグ全38クラブの仲間たちやオフィシャルスポンサー、中継放送局の皆さんの多大なるご協力があったことは言うまでもない。この場を借りて御礼を申し上げたい。

われわれJリーグは震災復興のスローガンを「チカラをひとつに。-TEAM AS ONE-」と決め、全38クラブと協力しながら復興支援活動を進めた。3月29日には、「東北地方太平洋沖地震復興支援チャリティーマッチ がんばろうニッポン!」を日本サッカー協会と協力して開催し、成功を収めることができた。SAMURAI BLUE(日本代表)の力強い戦いぶりもさることながら、82分にTEAM AS ONEの三浦知良選手(横浜FC)が決めたゴールにはJリーグのトップとして、私自身感動するとともに、苦しい状況でも力強く前に進んでいこうという勇気をもたらした。急な招集にもかかわらず、即断即決で参加を決めてくれたTEAM AS ONEのメンバーに心から感謝したい。

全国のJクラブは募金活動をはじめとした被災地への支援活動に取り組み、多くの選手、ファン・サポーターがさまざまな活動に参加した。被災地のために何ができるかを一生懸命考え、いち早く行動した一連の復興支援活動を通じて、私はJリーグならびにJクラブ、そしてホームタウンの皆さまと20年で築き上げてきた「絆(きずな)」を強く感じ、チェアマンとして心から誇らしく思った。

## リーグ戦、リーグカップ戦

J1リーグ戦では、柏レイソルがJ1昇格初年度での優勝という史上初の快挙を成し遂げ

た。ネルシーニョ監督のもと、ベテランと若手が融合し、チーム全員でシーズンを戦い抜いたこと、そしてJクラブの育成組織出身選手が数多く活躍したことは、クラブの強化・育成方針に間違いがなかったことを示している。

名古屋グランパス、ガンバ大阪は優勝の栄冠にあと一歩及ばなかったものの、圧倒的な攻撃力はJ1でも際立っていた。上位の3クラブには、来年のAFCチャンピオンズリーグ(ACL)での活躍を期待したい。

ガイナレ鳥取を迎えて、20クラブで行われたJ2リーグ戦では、FC東京が序盤は苦しんだものの、リーグ屈指のタレントを擁し、J2を制した。2位には、1999年の1・2部制導入初年度から在籍し、唯一J1昇格のなかったサガン鳥栖が入り、悲願の昇格を果たした。3位にはコンサドレ札幌が入り、4シーズンぶりのJ1復帰を果たすことになった。昇格する3クラブには、J1の舞台でさらなる活躍を期待したい。

伝統あるクラブ同士の対決となった2011 Jリーグヤマザキナビスコカップでは、鹿島アントラーズが9年ぶりに栄冠に輝いた。オズワルド オリヴェイラ監督と築き上げてきた揺るぎないチームコンセプトが、出場した準々決勝以降の3試合をいずれも1点差の勝利で勝ち抜くことができた要因だろう。準優勝の浦和レッズは、1回戦から参加し、若手選手を中心に試合を経験することによって成長の跡が見受けられた。国立競技場を埋め尽くした両クラブのファン・サポーターが、決勝の熱戦をさらに素晴らしいものにしてくれたことに感謝したい。

## ACL

アジアのクラブタイトルを目指して、Jリーグから4クラブが参加し熱戦を繰り広げたが、残念ながら初出場のセレッソ大阪がベスト8へ進出したにとどまった。他国の出場クラブのほとんどが、われわれの想像を上回る高いモチベーションで本大会に臨んでおり、タイトル奪還のためには多くの課題が残ることを痛感したシーズンとなった。

来年は必ずやJクラブがタイトルを取り戻すことができるよう、リーグとしても最大限のサポートをしていきたい。

## 法人設立20周年を迎えて

Jリーグは11月1日に法人設立20周年を迎えた。1993年のJリーグ開幕時の10クラブから、2012シーズンには新たに2クラブを迎え、29都道府県40クラブにまでその数を増やそうとしている。来年はリーグ戦ならびにヤマザキナビスコカップが20回目の記念すべき大会を迎える。この20年で築き上げてきた素晴らしい財産と20年を経過して生じたさまざまな課題を見極めつつ、リーグ全体での「共生」からクラブ間による「競争」への移行をより積極的に促し、来年をさらなるJリーグの発展へ向けたリスタートの1年と位置付けて行動に移していきたい。

## クラブライセンス制度の導入

サッカーのあらゆる水準の持続的な向上を目的として、Jリーグは2013シーズンよりクラブライセンス制度を導入する。これは、「Jリーグを世界に伍するリーグにする」というチェアマン就任時の目標の実現のために必要不可欠なことであり、Jリーグの持続的な成長を促す大きな役割を果たすものと確信している。この制度は決してクラブをふるいにかけるものではない。クラブライセンス制度の効果は、Jクラブの経営基盤を強化することにより、競技環境、観戦環境、育成環境の強化・充実を図り、日本におけるサッカーの競技力を向上させる「社会資本」としての役割を担うことにつながっていく。リーグとしても、クラブライセンス制度の実施に向けて必要な体制の整備を進めていきたい。

## プロサッカー選手として

一連の震災復興支援活動への参加を通して、選手たちはこれほどまでにプロサッカー選手としてのあるべき姿を問われた年はなかったと思う。対戦相手やレフェリーに対するリスペクトの精神のみならず、あらゆるステークホルダーに対してプロサッカー選手としてどうあるべきかを心から意識したことだろう。

単なる試合の勝敗を超え、プロのアスリートとして、そして地域を代表する存在としての矜持を持って行動することが、すなわちJリーグの価値そのものなのだという高い意識を持って、これからも行動してほしい。

